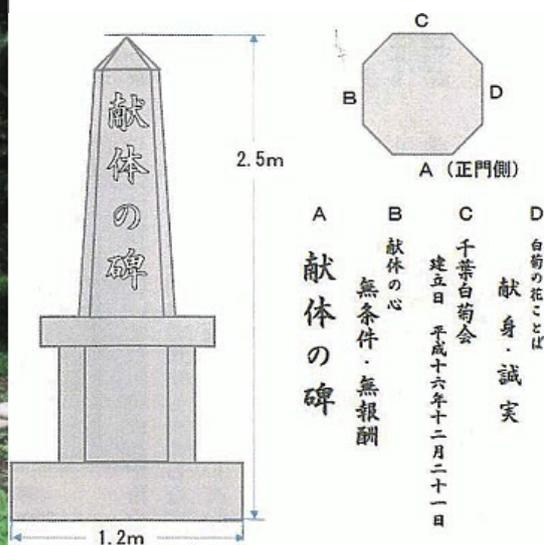


献体の碑

千葉白菊会 50 年のあゆみより一部抜粋

悲願の「献体の碑」建立

千葉白菊会三代会長 故 丸山武文



医学部の正門を入ると、目の前の林の中に千葉白菊会の「献体の碑」があります。建立日は平成 16 年（2004 年）12 月 21 日（火）、冬至の日でした。晴れ渡った好天に恵まれ、除幕式には森千里教授をはじめ大学関係者、白菊会役員、医学部学生など 120 名が参列し、盛大に行われました。このときの状況は千葉白菊会会報（通巻 35 号・復刊 19 号）で皆さんにお知らせしました。実は私は四国徳島県の出身で、祖父・父とも徳島大学医学部の徳大白菊会会員でした。祖父は昭和 43 年、私が結婚した年の 8 月、徳大白菊会第一号の献体者、父は昭和 48 年の第 16 号の献体者であります。ですから人間は死亡しても医学の為に役立つのだと、祖父と父から教えられていたので、白菊会に入会する考えは若いときから持っておりましたが、会社勤めの関係で、千葉白菊会へ入会したのは平成 10 年になりました。平成 14 年に千葉白菊会 3 代会長を山内彰吉 2 代会長から引き継ぐことになり、その引き継ぎに際し山内会長から初代会長の齋藤利一氏も「献体の碑」建立を検討していたので、ぜひ早急に実現するよう強い希望があったのです。そこで、毎年開催される篤志献体団体全国大会に出席したときには、他大学の役員の方々にもご意見を聞き、いろいろとお教をいただいたことを参考にし、基本的な取り組み方として、次の事項を役員会で検討することになりました。

千葉大学の絶大なご協力を得ながら、幾度も協議を重ねて実施案をまとめていったわけですが、特に、建立場所としては、白菊会会員や学生の皆さんが学校生活の中で常に目につきやすい場所にしたいと、森教授にお願いをし教授会で承認をいただき、現在のあの場所に決まったことは、私たちの大きな喜びでありました。そして碑の左右側面に「献体の心：無条件・無報酬」「白菊の花のことば：献身・誠実」を刻字した高さ2メートル50センチの立派な「献体の碑」が完成したのです。

碑周辺の整備・清掃を当時役員でした森川晶夫氏に管理責任者になっていただき、定期的に管理・清掃に尽力していただきました。今では大学の方でも積極的に清掃していただいております。感謝に堪えません。現在、公式な行事としては、千葉白菊会定時総会時の直近一年間の献体者名簿の奉納式、医学生の解剖学講座修了時の献花式、そして毎年一月初めの森教授など解剖学教室の皆さんと白菊会役員による念頭の献花式が、この「献体の碑」の前で行われております。「献体の碑」の傍らに当時准教授でした門田朋子氏寄贈の蠟梅が植樹されており、時期が来ると芳香馥郁と訪れる人を楽しませております。私も月に一度は碑に逢いに行きますが、花束を携えてこられた遺族と思われる方や、この林を通して食堂に通う学生や職員の方たちが、時々碑に頭をたれる姿をみることがあります。そんな時これも「献体の碑」を建立した意義かと心が温かくなります。献体は医学の為に無条件・無報酬で我が身を大学に引き取っていただくだけです。その心を具現化したのが「献体の碑」であると私は思っております。